

オルガノ株式会社

2020年3月期 決算説明会

(証券コード : 6368)

2020年 5月18日



目次

1. 2020年3月期 通期実績
2. 2021年3月期 通期計画
3. 中期経営計画
4. 会社概要

目次

1. 2020年3月期 通期実績

2. 2021年3月期 通期計画

3. 中期経営計画

4. 会社概要

20年3月期 通期実績の概要

■ 受注・売上・利益とも過去最高を達成

- ・ 国内、台湾で電子産業分野の大型投資が下期回復
- ・ 一般産業、電力/上下水分野はソリューションが堅調
- ・ プラントの収益性改善、ソリューション伸長で利益拡大

(単位：億円)

■ 水処理エンジ ■ 機能商品



20.3期実績：コロナウイルス感染拡大の影響

国内

- ・ 20年2月以降、海外との物流・人の移動に一部混乱がみられたが影響は限定的
- ・ 輸出やインバウンド需要の減少などにより一部顧客で工場稼働率の低下がみられたが、通期業績への影響は軽微

海外

- ・ 海外子会社の実績は12月決算で取込
20年3月期業績には影響せず

20年3月期実績：損益計算書

単位：億円	19.3 実績	20.3 期初計画	20.3 実績	前期差	計画差
受注高	1,038	950	1,049	+ 11	+ 99
売上高	922	960	965	+ 42	+ 5
売上総利益 (%)	229 (24.8%)	234 (24.4%)	272 (28.3%)	+43 (+ 3.4pt)	+ 38 (+ 3.9pt)
販管費	163	168	173	+ 10	+ 5
営業利益 (%)	65 (7.1%)	66 (6.9%)	99 (10.3%)	+ 33 (+ 3.2pt)	+ 33 (+ 3.4pt)
経常利益	65	65	99	+ 33	+ 34
親会社株主に 帰属する 当期純利益	44	44	71	+ 27	+ 27

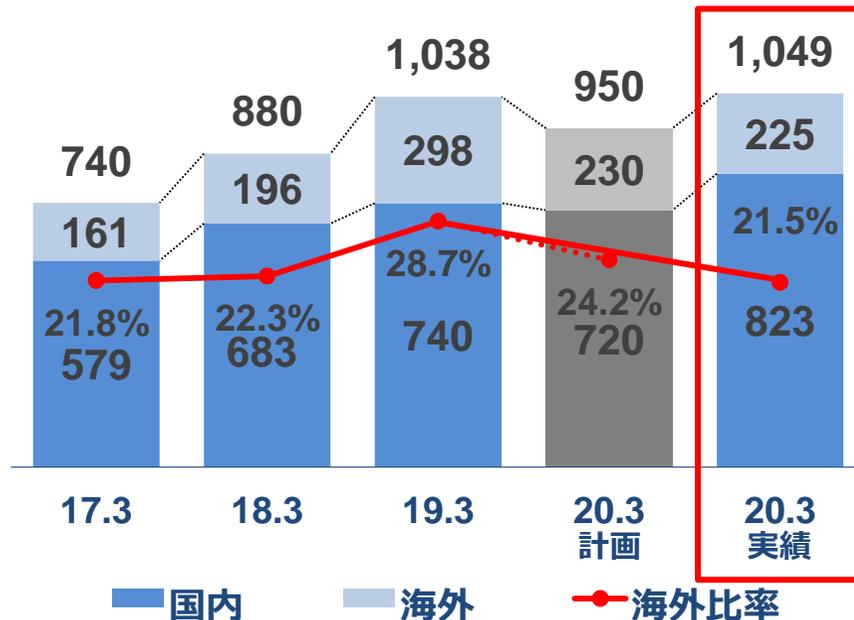
20年3月期実績：地域別受注高

■ 中国が減速も、国内・台湾の受注が下期回復

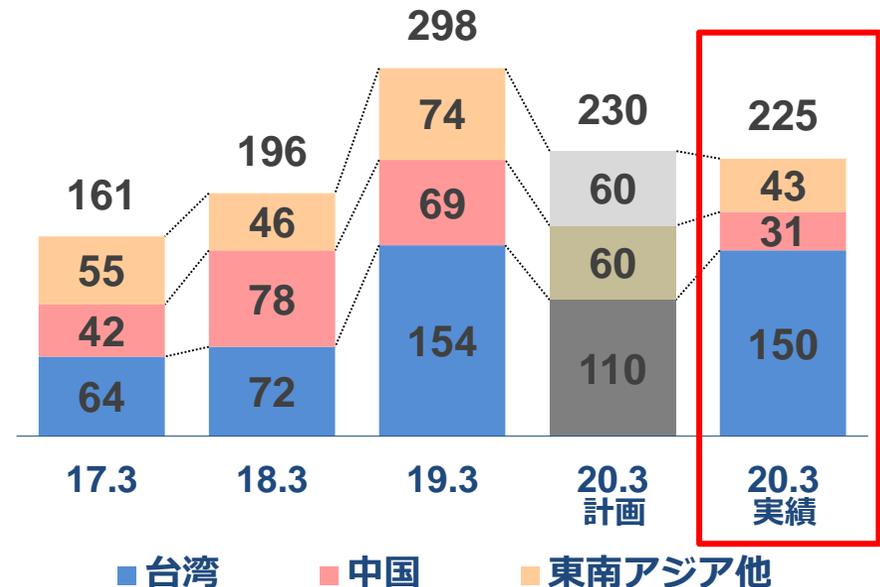
- ・ 国内は当社過去最大規模となる大型半導体プロジェクト、台湾はファウンドリの最先端投資プロジェクトを下期受注
- ・ 中国では米中摩擦が影響し半導体投資が減速

(単位：億円)

国内・海外別通期受注高



海外 地域別通期受注高



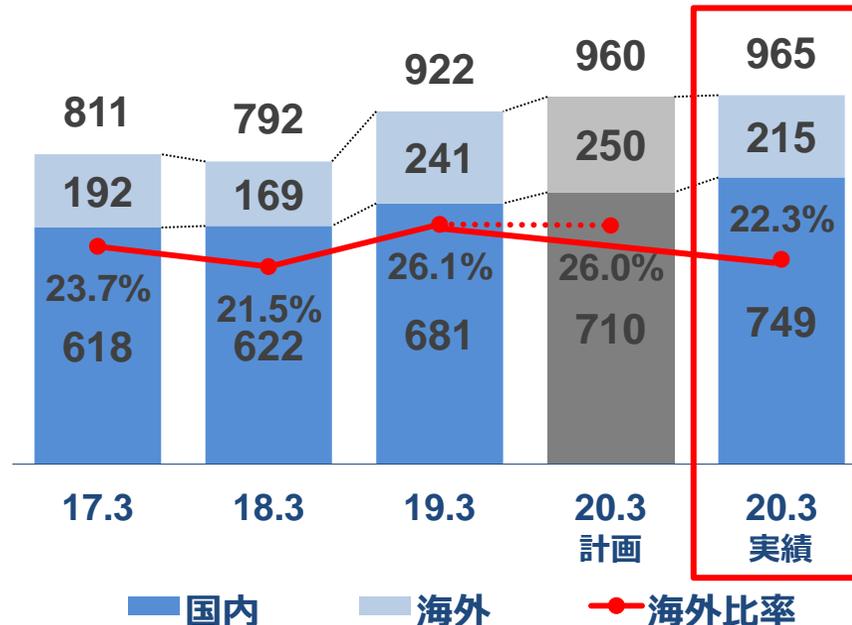
20年3月期実績：地域別売上高

■ 国内の売上拡大で前期比・計画比とも増加

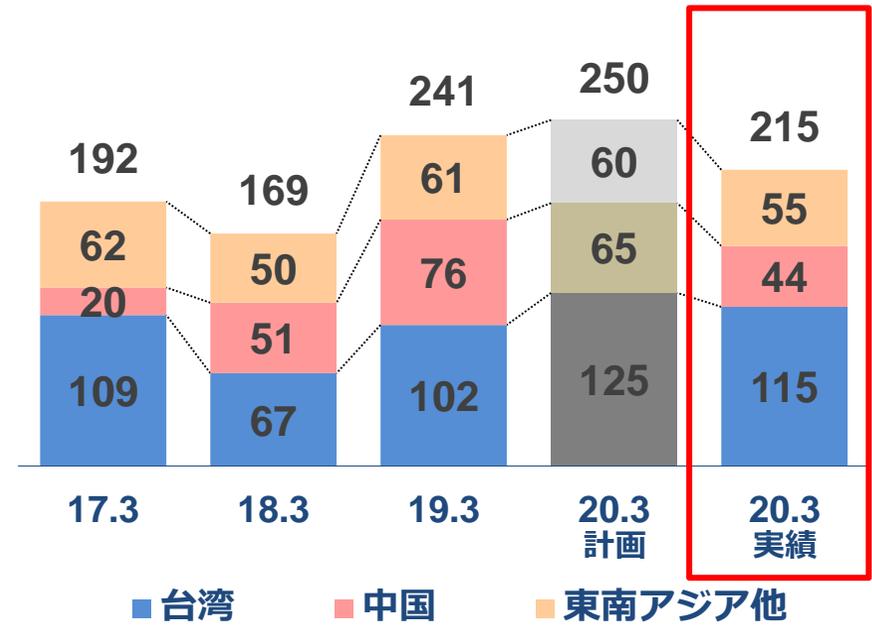
- ・ 国内は電子産業向けが伸長、一般産業、電力/上下水分野でもソリューションが堅調に推移
- ・ 海外では台湾が前期比拡大も中国の半導体投資減速が影響

(単位：億円)

国内・海外別通期売上高



海外 地域別通期売上高



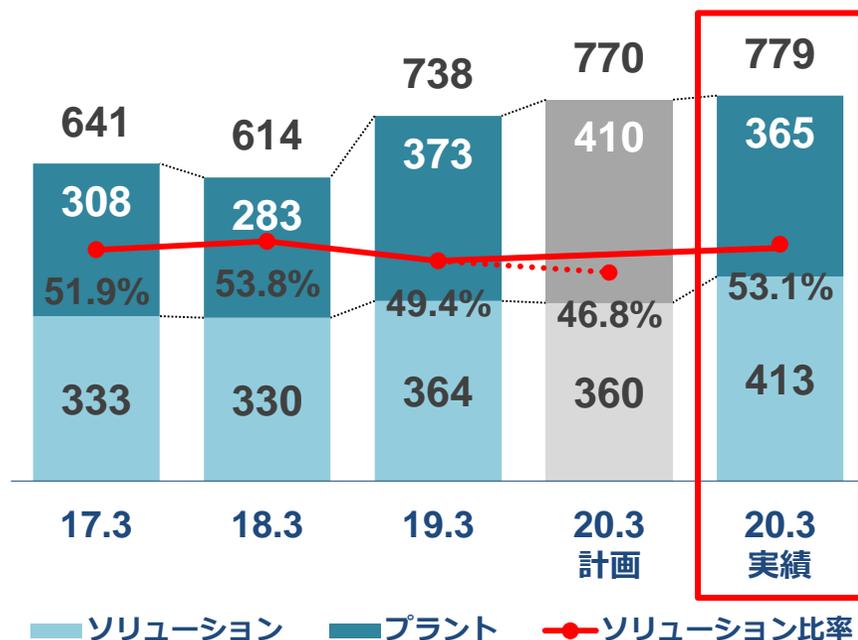
20年3月期実績：水処理エンジニアリング事業（売上高）

■ 設備改造などソリューションが好調に推移

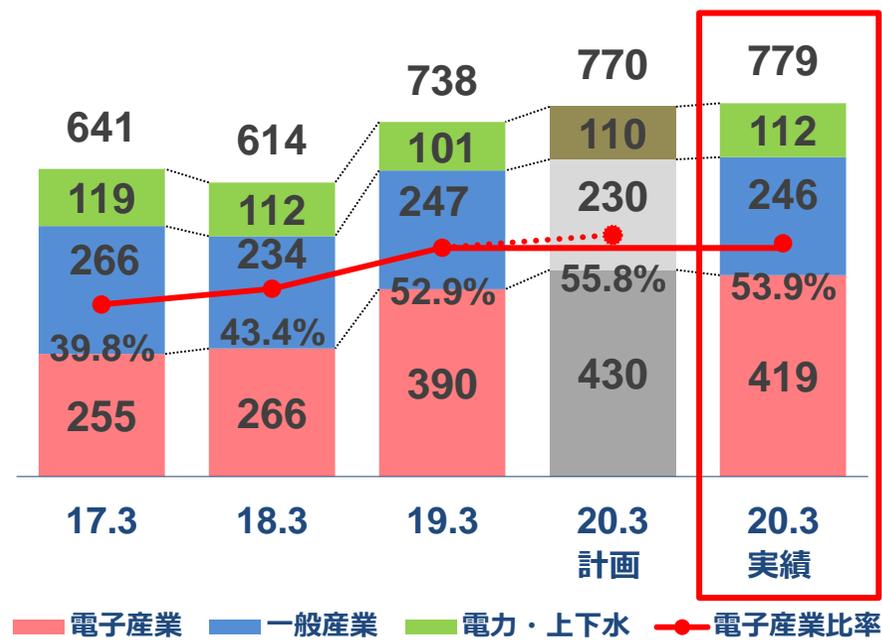
- ・ 電子は大型案件の受注時期遅れが影響もソリューション好調
- ・ 一般産業は改造案件等のソリューション堅調で前期並確保
- ・ 電力/上下水も国内ソリューション中心に売上拡大

(単位：億円)

水エンジニアリング事業 部門別売上高



水エンジニアリング事業：顧客別売上高



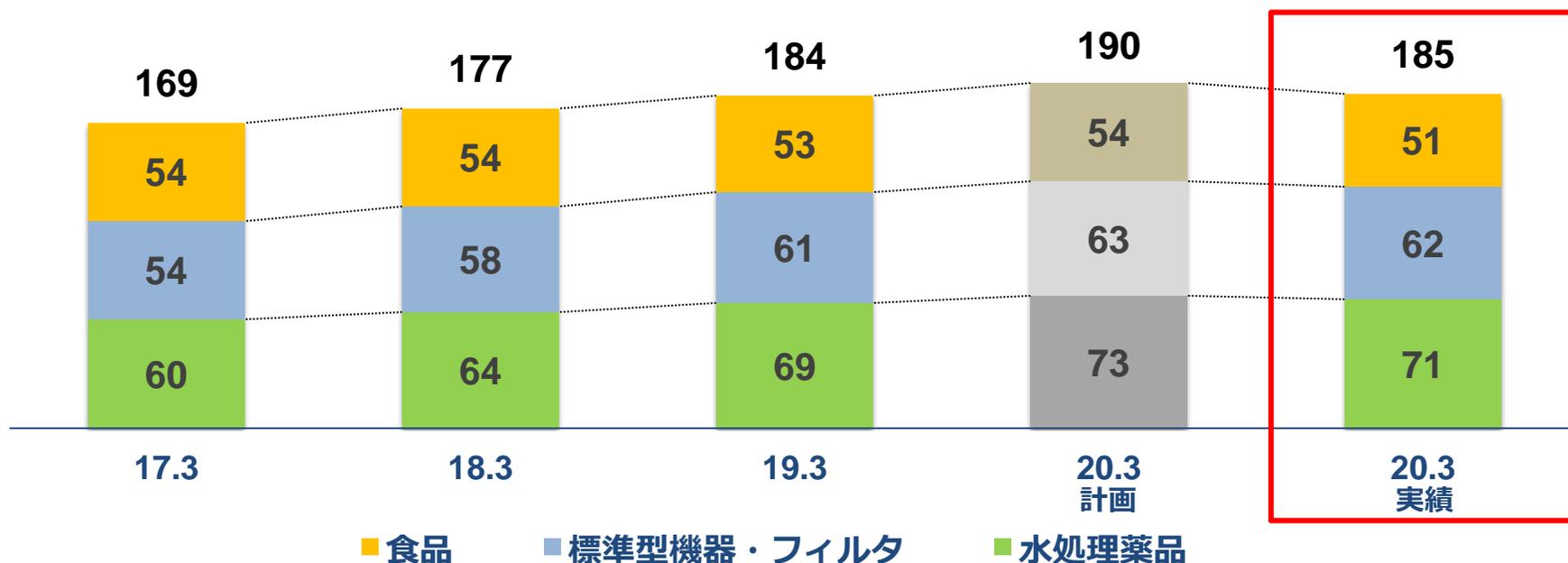
20年3月期実績：機能商品事業（売上高）

■ 機能商品は計画未達も前期並の売上確保

- ・ 輸出の減少や工場稼働率低下など影響も、海外向けの水処理薬品の伸長や、標準型機器・フィルタの製品リニューアルが奏功
- ・ 食品は前期比で若干の減少も堅調に推移

機能商品事業 部門別売上高

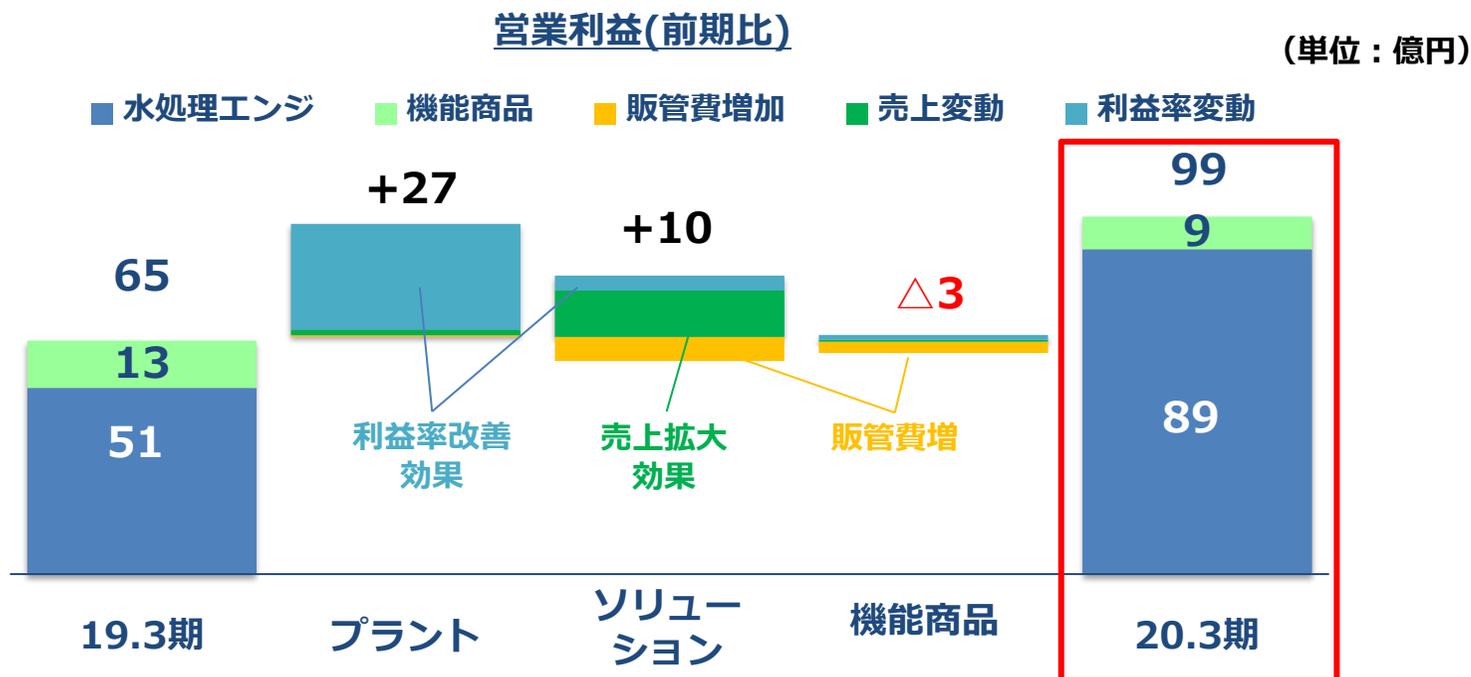
(単位：億円)



20年3月期実績：営業利益分析

■ 通期営業利益は過去最高の99億円を達成

- ・ プラントはコストダウン・受注採算性改善で利益率改善
- ・ ソリューションは売上拡大が寄与、販管費増加も増益達成
- ・ 機能商品の減益は開発投資・体制強化など販管費増加が影響



目 次

1. 2020年3月期 通期実績
- 2. 2021年3月期 通期計画**
3. 中期経営計画
4. 会社概要

21年3月期計画：前提条件

コロナウイルス感染拡大の影響については、
現段階で想定可能な影響のみ21年3月期計画に反映

電子産業 分野

- ・ 当期売上のベースとなる受注残は高水準
- ・ 台湾・中国では積極的な投資計画進む
- ・ メモリ・5G等への投資期待と最終製品の需要減少による影響懸念が混在

その他 市場

- ・ 19年度後半からの景気減速や電子分野へのリソース集中を踏まえ、前期並水準を計画

収益性 動向

- ・ プラント部門の受注採算性悪化やコスト増による利益率の低下を想定

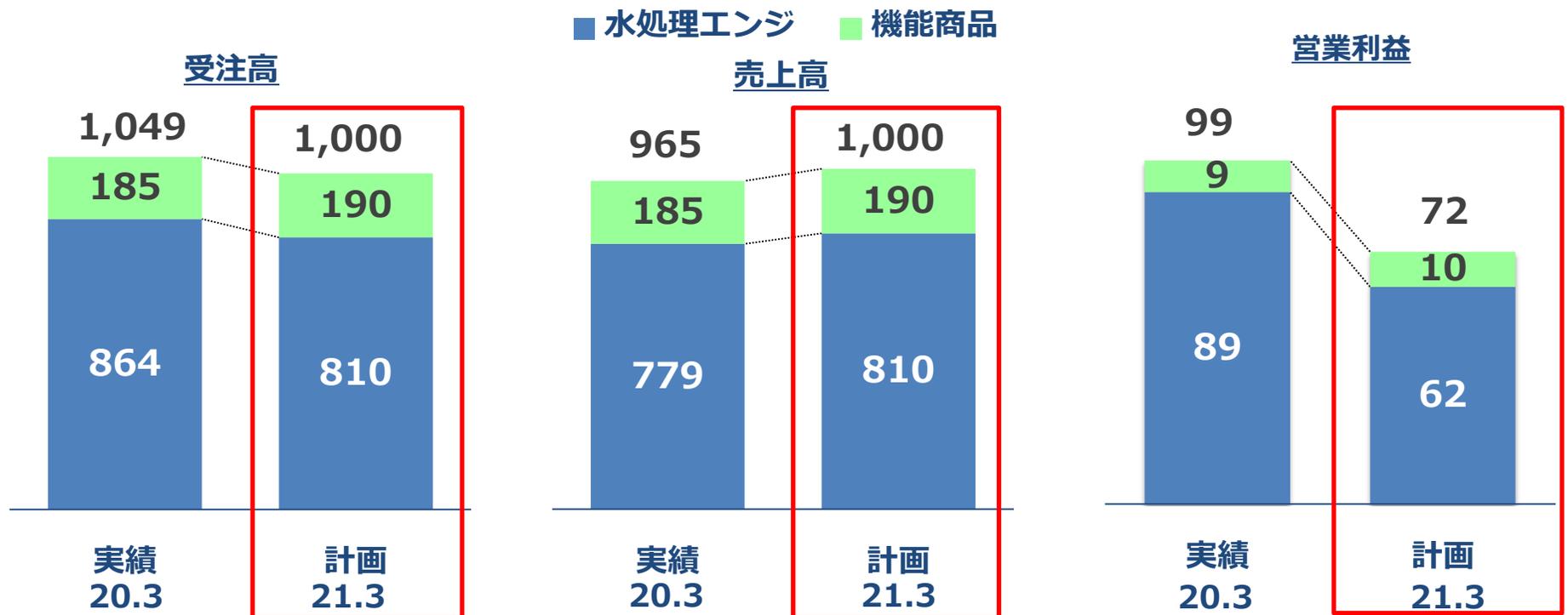
21年3月期計画の概要

受注高：台湾・中国で電子産業関連の大型投資を見込む

売上高：国内・台湾の受注残案件の売上により1,000億の達成を目指す

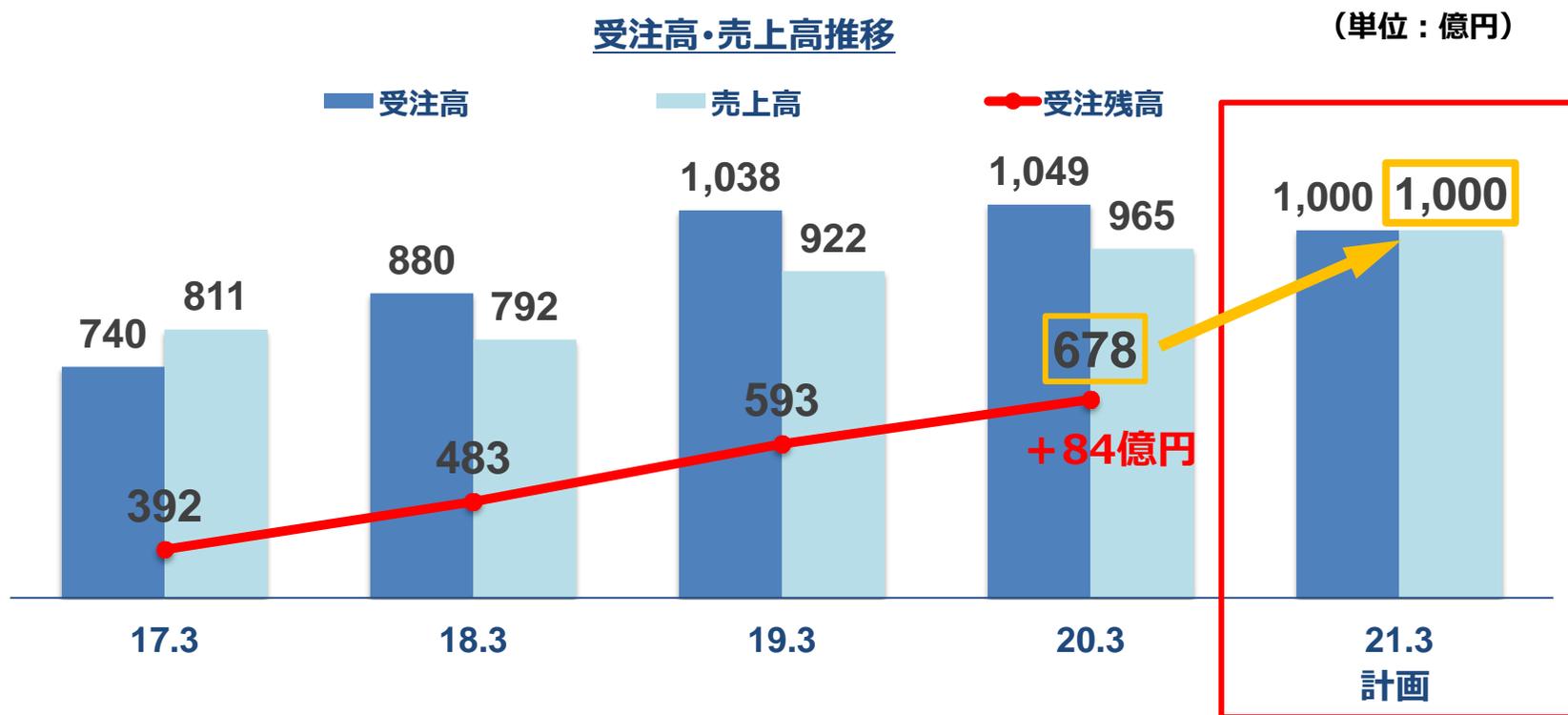
営業利益：プラント部門の利益率低下や開発投資等の増加を想定

(単位：億円)



21年3月期計画：繰越受注残の状況

- 当期売上高のベースとなる受注残は過去最高
前期受注した国内・台湾の大型プロジェクトなど受注残の案件は現時点でほぼ計画通りに工事が進行中



21年3月期計画：損益計算書

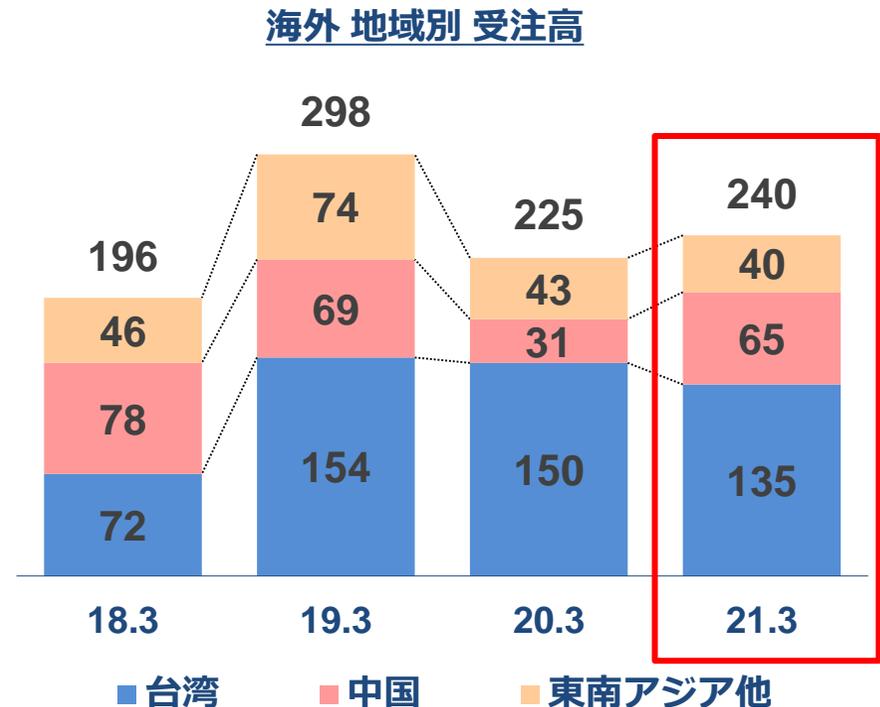
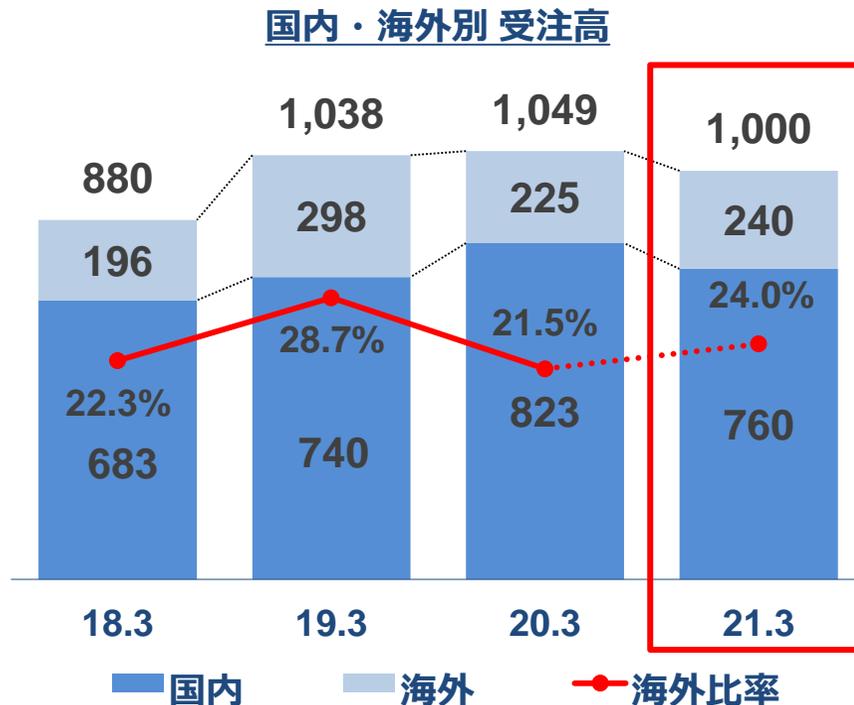
単位：億円	2020.3 実績	2021.3 計画	前期差
受注高	1,049	1,000	-49
売上高	965	1,000	+ 34
売上総利益 (%)	272 (28.3%)	256 (25.6%)	-16 (-2.7pt)
販管費	173	184	+ 10
営業利益 (%)	99 (10.3%)	72 (7.2%)	-27 (-3.1pt)
経常利益	99	71	-28
親会社株主に 帰属する 当期純利益	71	47	-24

21年3月期計画：地域別受注高

■ 電子産業分野で台湾・中国の積極投資を見込む

- ・ 足下では台湾・中国が好調に推移、さらなる積極投資を計画
- ・ 現時点では投資計画のキャンセル・延期等は発生せず
- ・ 国内は下期に電子産業の大型投資を想定

(単位：億円)



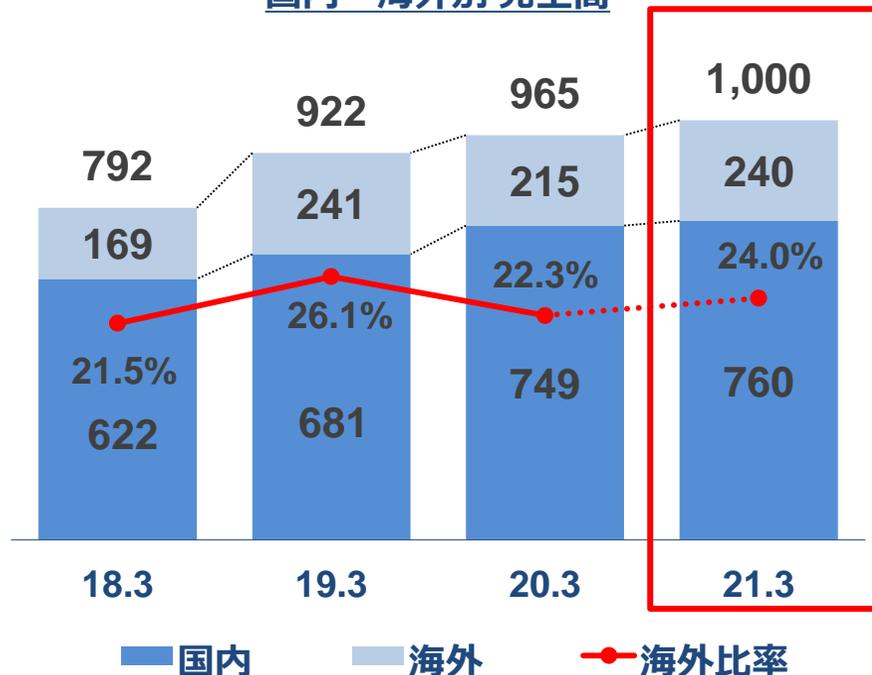
21年3月期計画：地域別売上高

■ 国内・台湾の売上増中心に初の1,000億円目指す

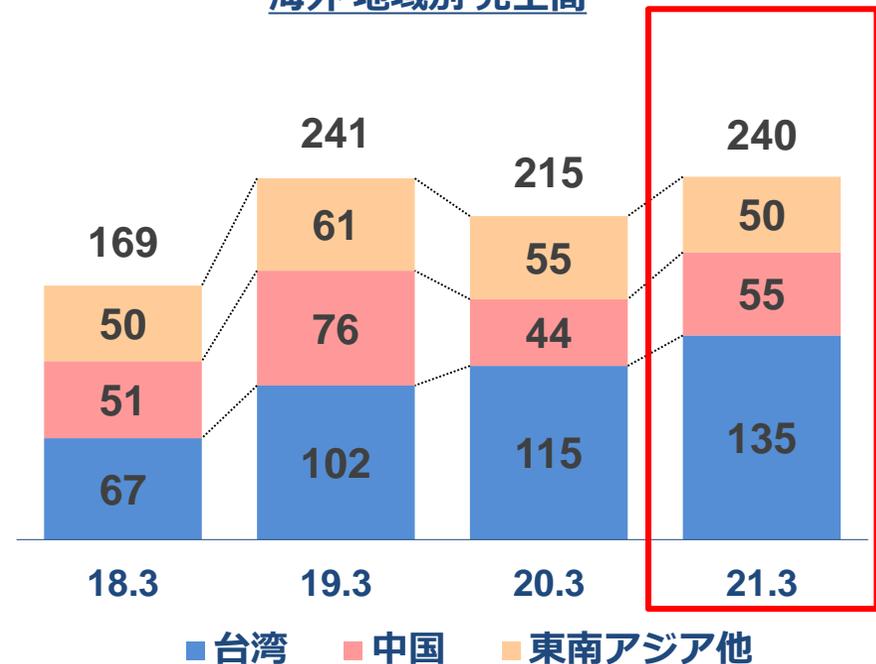
- ・ 国内・台湾では前期受注した大型半導体案件の工事進捗による売上の拡大を見込む
- ・ 中国も半導体関連の大型投資回復で売上増を計画

(単位：億円)

国内・海外別売上高



海外地域別売上高



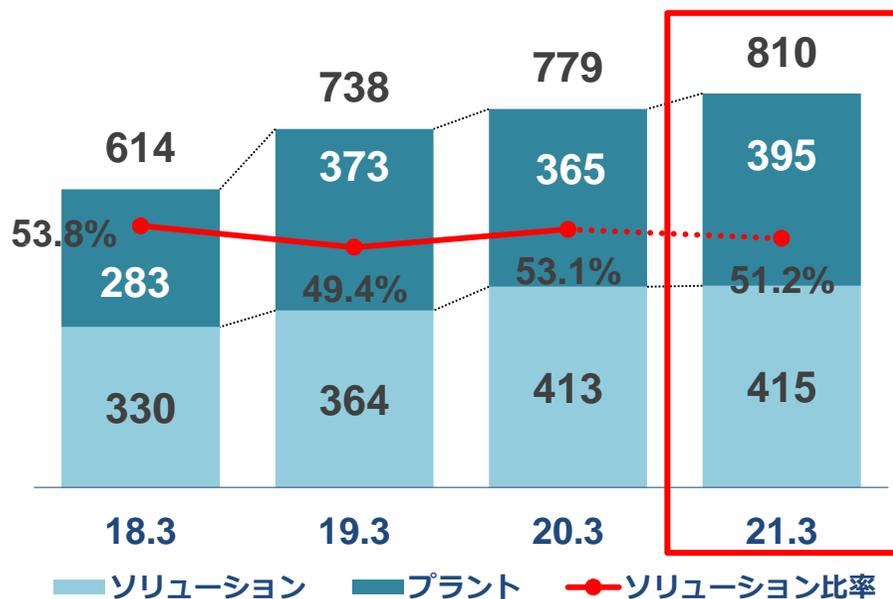
21年3月期計画：水処理エンジニア事業（売上高）

■ 電子産業のプラント伸長による売上拡大を見込む

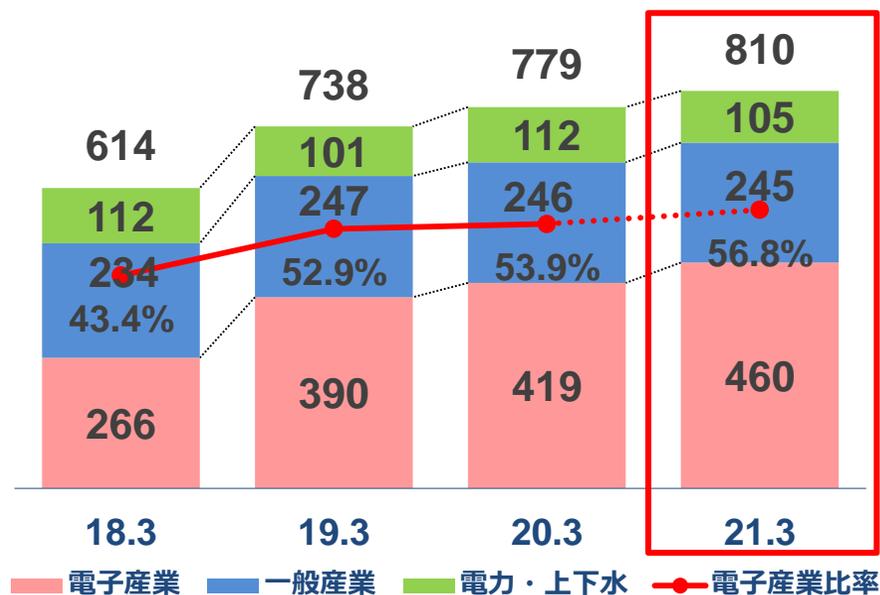
- ・ ソリューションは電子産業を中心に前期並の売上を見込む
- ・ プラントは国内外の案件で順調な工事進捗を想定
- ・ 電力/上下水は案件減少、一般産業は前期並水準を計画

(単位：億円)

水エンジニア事業：部門別売上高



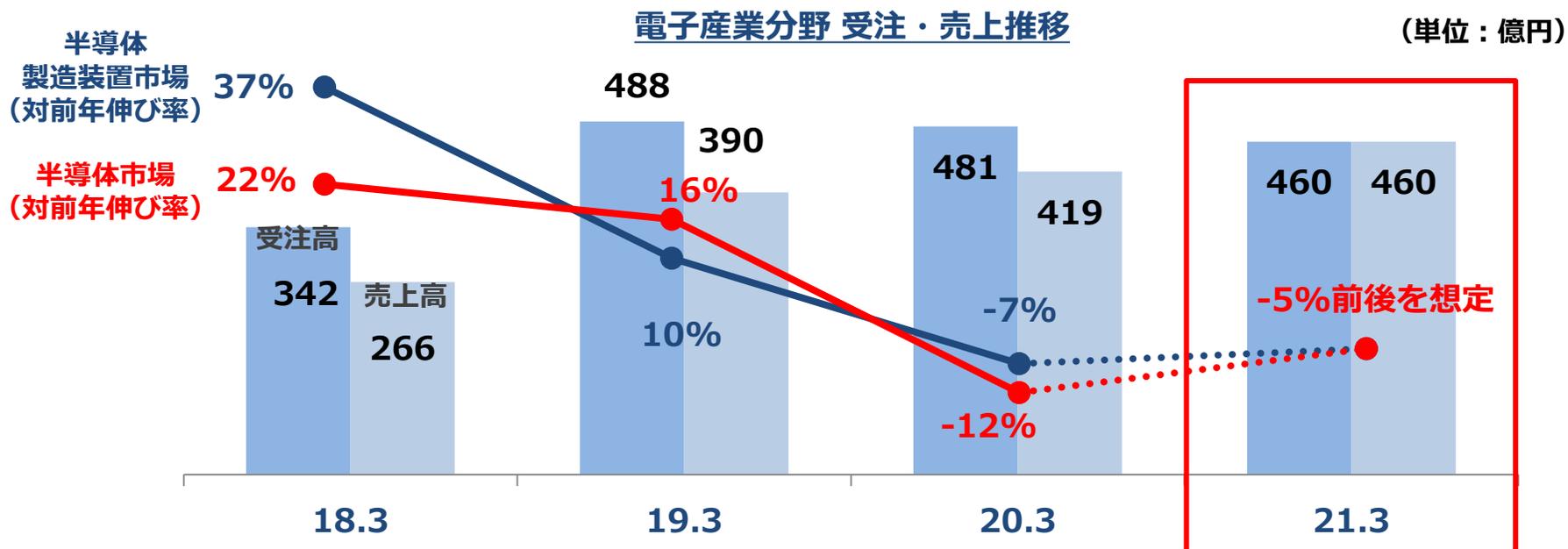
水エンジニア事業：顧客別売上高



21年3月期計画：電子産業分野の見通し

■ 繰越受注残は高水準、台湾・中国で積極投資も 先行きには懸念材料

- ・ 繰越受注残となった国内・台湾の大型案件の売上を想定
- ・ 台湾・中国は足下好調、下期以降メモリ・5G投資にも期待
- ・ スマホ・自動車など最終製品の需要減による影響懸念



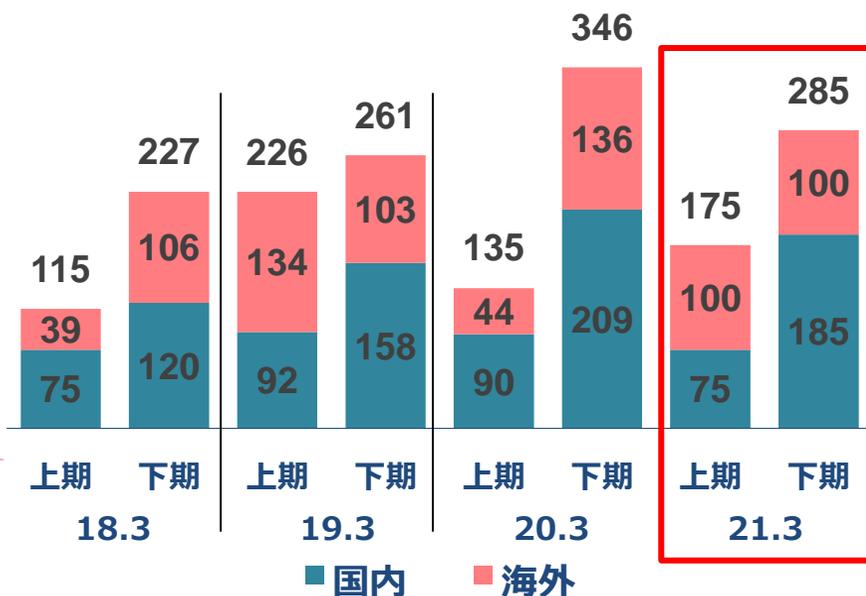
出典：半導体市場(WSTS)・半導体製造装置市場(SEAJ)資料等をもとに当社推定

21年3月期計画：電子産業分野（受注高）

■ 台湾・中国は足下好調、国内は下期に大型投資想定

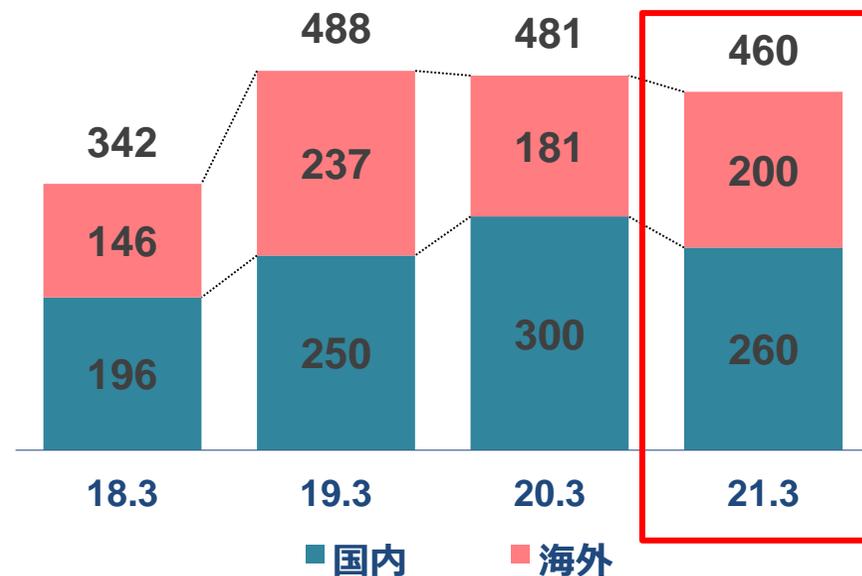
- ・ 台湾は最先端投資など高水準の積極投資継続
- ・ 中国では前年減少した半導体向けの大型投資再開の動き
- ・ 国内はメモリや5G投資など下期に大型投資を想定

電子産業分野 受注高（上下別）



電子産業向け 受注高

（単位：億円）



21年3月期計画：電子産業分野（売上高）

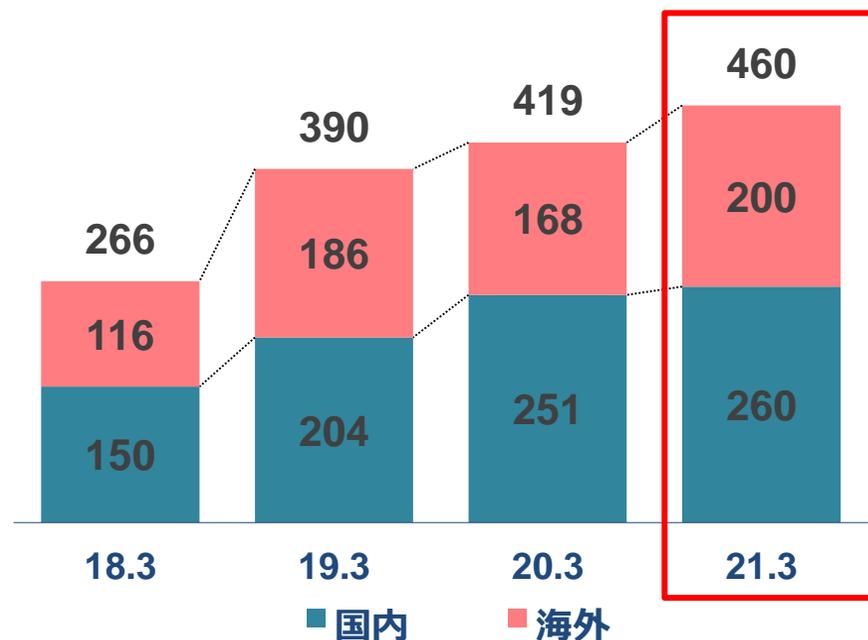
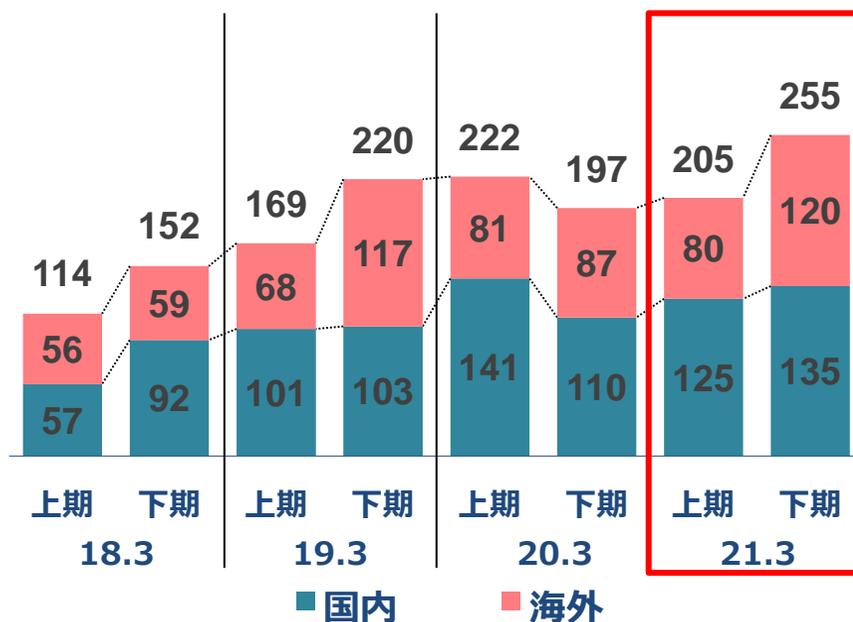
■ 売上高は国内・海外ともプラント中心に拡大

- ・ 国内は前期受注の大型案件の工事進捗による売上増を見込む
- ・ 台湾で当期も積極投資続き売上の増加を見込む
- ・ 中国は大型投資の再開による下期以降の売上拡大を計画

(単位：億円)

電子産業向け 売上高（上下別）

電子産業向け 売上高



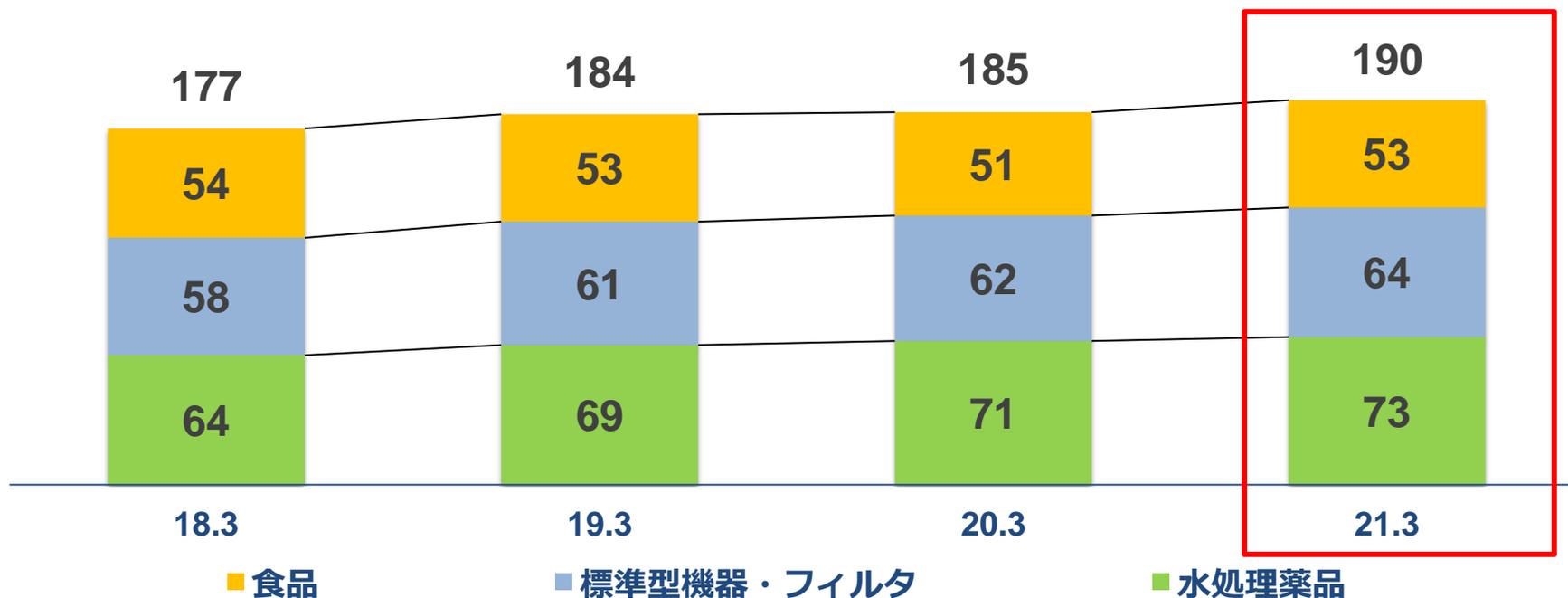
21年3月期計画：機能商品事業（売上高）

■ 機能商品事業は前期比2.2%増の190億円を計画

- ・ 水処理薬品は電子産業分野を中心に海外での売上拡大を計画
- ・ 標準型機器は新商品の投入を継続、中国での拡販強化
- ・ 食品は造粒技術を核に販売数量の拡大を計画

機能商品事業 部門別売上高

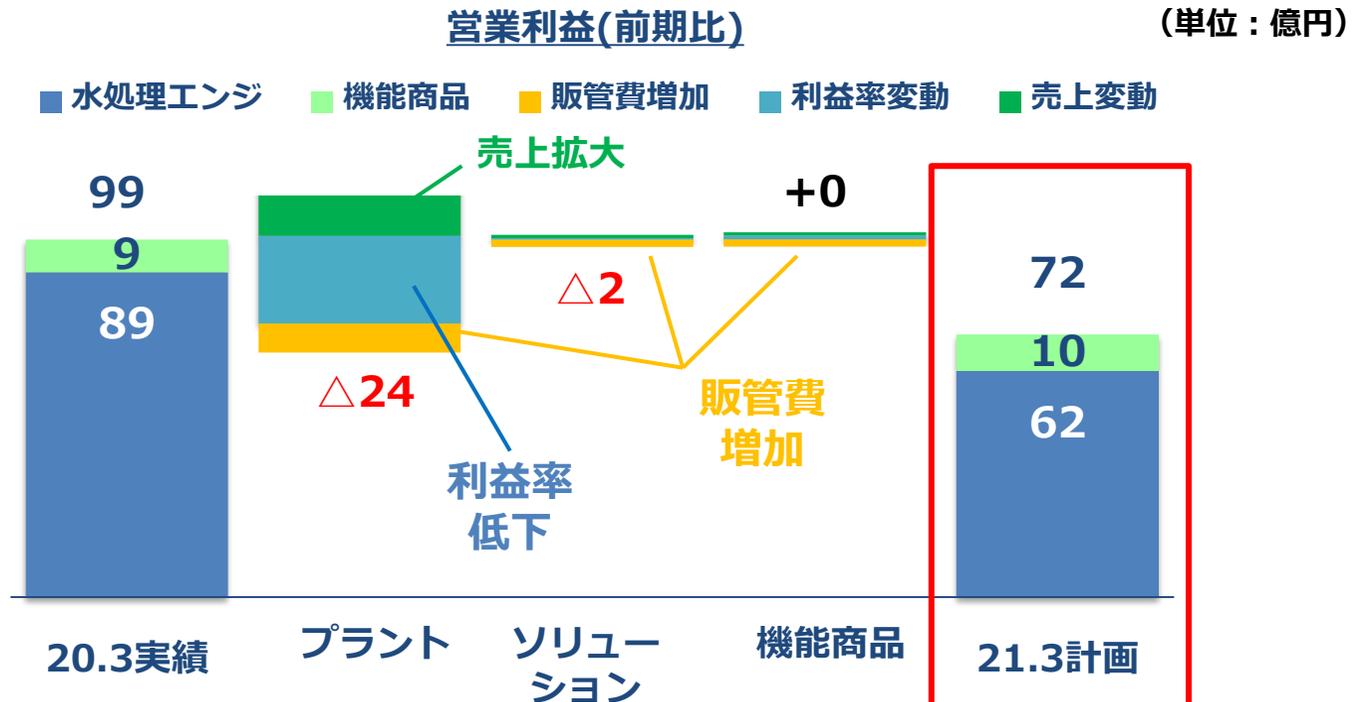
(単位：億円)



21年3月期計画：営業利益

■ 営業利益は前期比減となる72億円を想定

- ・ プラント部門では売上増見込むが、受注採算性の悪化やコスト増など利益率の低下を想定
- ・ 業務効率化や研究開発、体制強化に向けた販管費の増加を計画



21年3月期計画：コロナウイルス感染拡大の影響

全体感

- 現時点では業績に大きな影響を与えるレベルの投資案件の中止・延期、工場停止等は発生せず
- 当期業績への影響
 - ・ プラント部門は人の移動制限や材料等の調達混乱、工程遅延等に伴うコスト増・売上進捗への影響を懸念
 - ・ ソリューション・機能商品は工場稼働率や生産水準の低下による販売減を懸念
- 来期以降への影響
 - ・ 経済停滞の長期化による設備投資の抑制が来期以降の業績に大きな影響を与えるおそれ
 - ・ 設備投資の抑制は競争激化・予算縮小など受注採算性にも影響、収益性の低下も懸念

21年3月期計画：コロナウイルス感染拡大の影響

電子産業 市場

- 国内・台湾の大型受注残案件は順調に工事進捗する見通し
- 台湾・中国市場は投資・生産とも高水準、積極的な投資も計画されており、現時点での影響は限定的
- 足下の半導体需要は好調、国内外で生産・投資水準維持を想定、停滞長期化で来期以降の業績に影響する可能性も

その他 市場

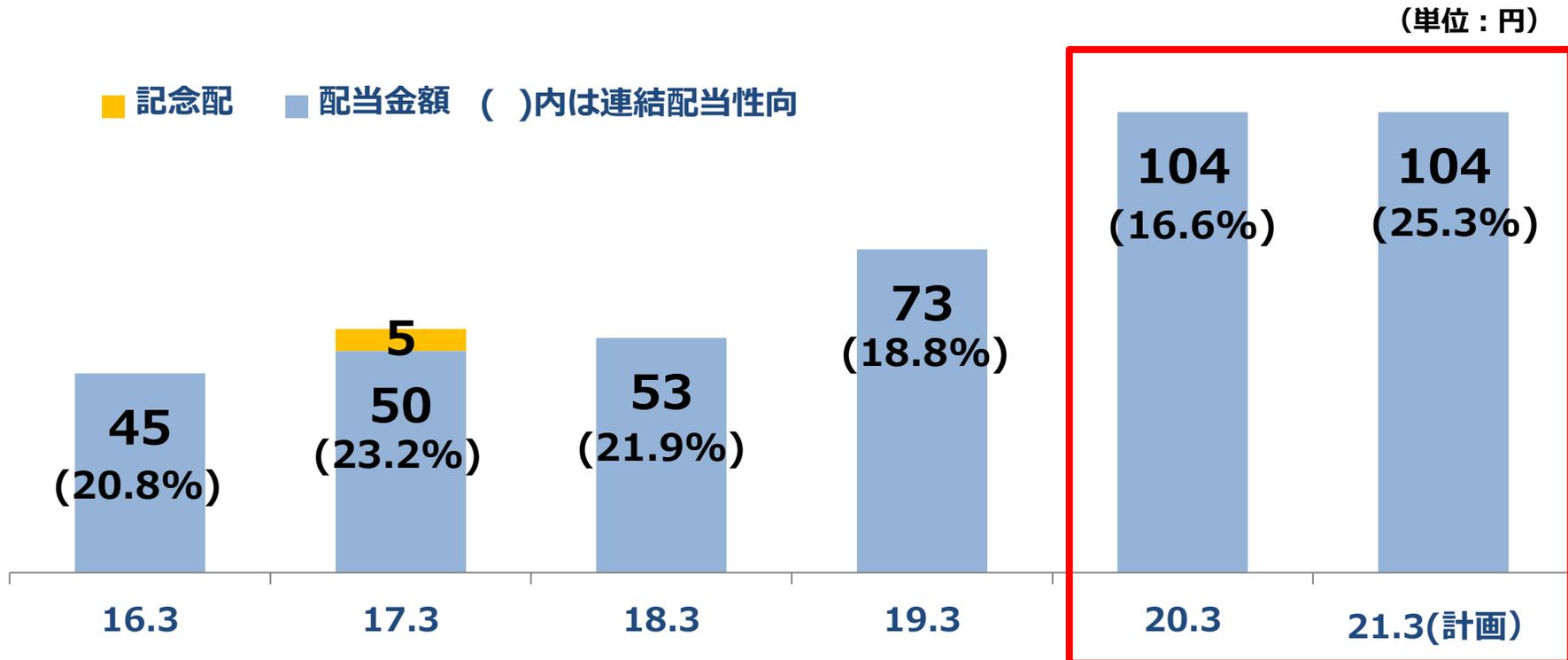
- 一般産業・機能商品
 - ・ 設備投資の抑制の影響は下期～来期以降に本格化
 - ・ 工場稼働率や生産水準の低下はソリューション、機能商品販売に影響、売上減少を懸念
- 電力・上下水
 - ・ 現時点では大きな影響を想定せず

主な指標

	19年3月期	20年3月期 計画	20年3月期 実績	21年3月期 計画
設備投資額 (百万円)	635	800	965	1,400
技術研究費 (百万円)	1,823	2,100	2,178	2,350
減価償却費 (百万円)	920	1,100	1,189	1,200
有利子負債 (百万円)	13,659	15,000	9,740	20,000
従業員数 (人)	2,186	2,200	2,249	2,275
年間配当金 (円)	73	78	104	104
ROE (%)	8.4	7.8	12.4	7.5

配当金の推移

- 20年3月期は収益状況を踏まえ、中間・期末で配当増額
- 安定的・継続的な配当の実施を基本方針としつつ、収益の状況に応じた利益配分に努める



目 次

1. 2020年3月期 通期実績
2. 2021年3月期 通期計画
- 3. 中期経営計画**
4. 会社概要

中期経営計画：中期経営ビジョン



- アジア地域・電子産業分野を中心に、最適な品質の水を、最も合理的なコストで、最もタイムリーに提供する
- 高付加価値の機能材・先進的なICT/AI技術を活用したソリューションサービスをグローバルに展開する
- 独自の分離精製プロセスで次世代産業の価値創造を支える事業を創出する

中期経営計画：重点分野

電子産業分野 の拡大



- ・ 5GやAI/IoT技術を活用したビジネス・医療・教育の拡大などによる中長期的な市場拡大を想定
- ・ 最先端分野に向けた高度分離・精製技術の開発
- ・ エンジニアリング業務の効率化とコストダウンによる生産能力（キャパシティ）・収益性の拡大

ソリューション サービスの 強化

- ・ ソリューションと機能商品の一体的な強化
- ・ ICT/AI技術との組合せによる顧客価値の拡大
- ・ 海外におけるソリューションサービス体制の強化

新規事業の 創出

- ・ リチウムイオンバッテリー/バイオ医薬/
最先端半導体分野への高度分離・精製技術の展開
- ・ 最先端半導体・高度下水処理など米国への
展開の準備を進める

中期経営計画：ソリューションサービス強化（1）

■ 新たなソリューションサービスの展開

ICT/AI技術の活用によってプラント・機能商品を組合わせた新たなソリューションサービスを展開し、顧客価値の拡大を図る。

新たなソリューションサービス



- プラント・機能商品をセンサーやIoTで組合わせた新たなソリューションサービスを開発
- データ収集・解析による提案型ソリューション強化
- 中国など海外でのソリューション体制強化

データセンター創設



- 客先の設備・運転データをICT/AI技術を活用して収集・解析を行うデータセンターを創設
- 提案型の新たなソリューションサービスを展開

中期経営計画：ソリューションサービス強化（2）

遠隔監視システム「オルトピアJ」の展開

オルトピアJ



上下水道向けのクラウド型遠隔監視システム「オルトピアJクラウド」の販売が好調に推移

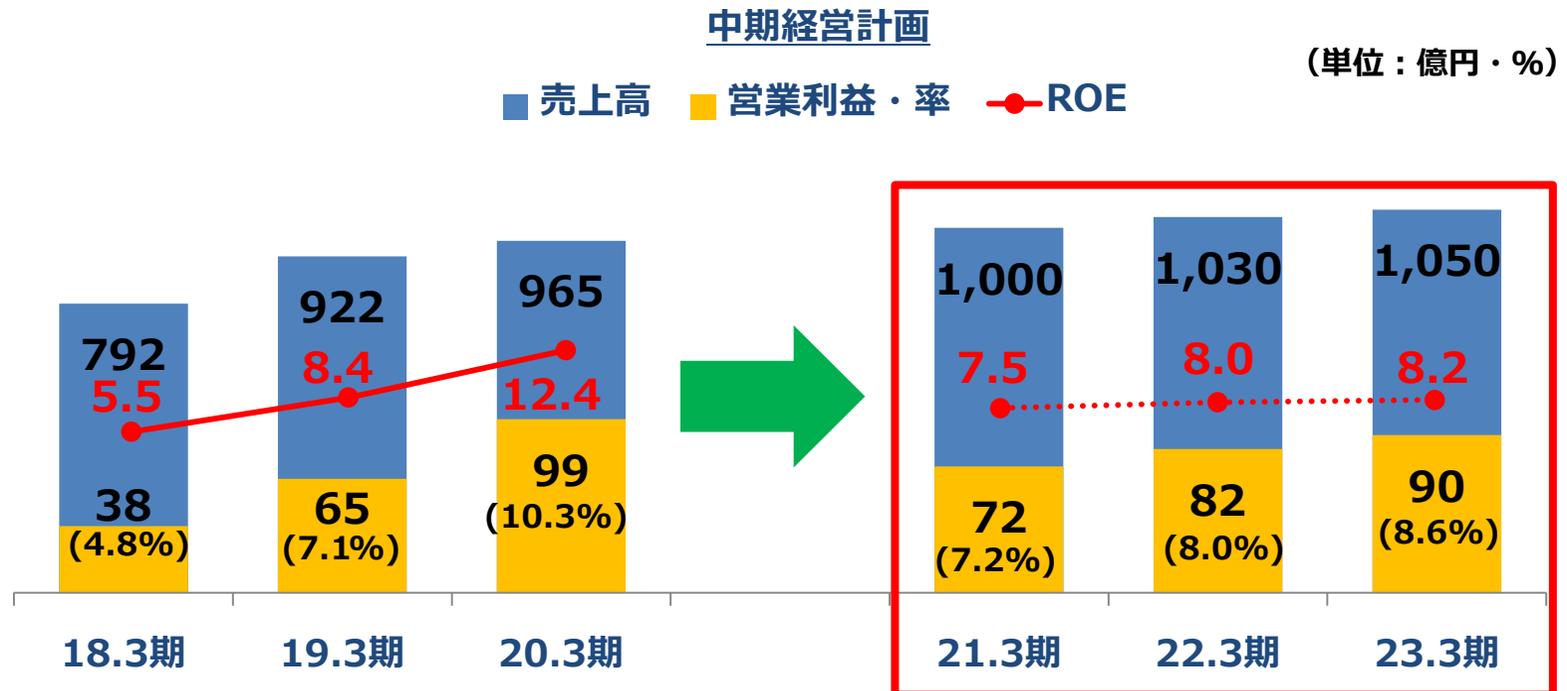


電子産業や医薬・食品など一般産業、発電所などへのサービス展開強化

運転データの活用による運転効率化や、省エネ提案、設備状況に応じた改造提案など提案型ソリューションサービスの強化

中期経営計画：21.3期～23.3期計画

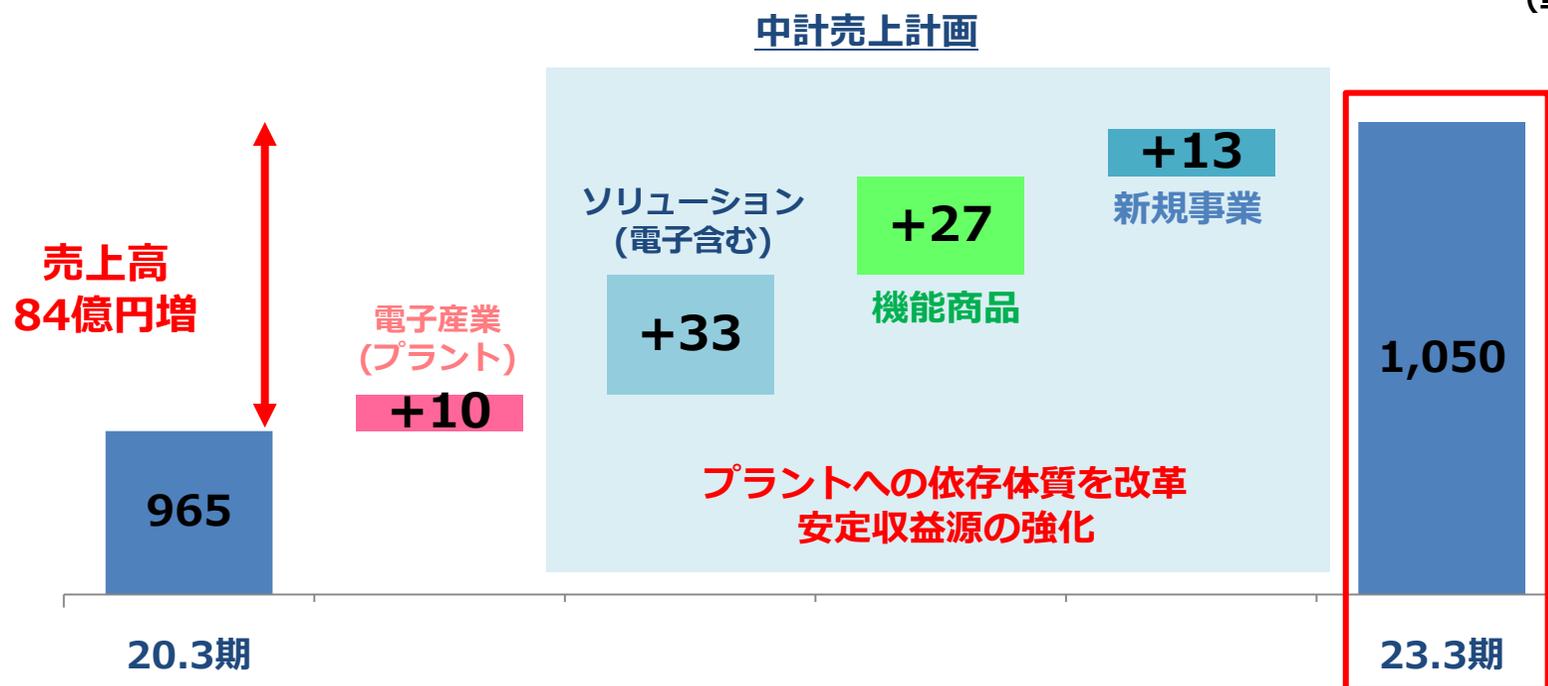
- 最終年度（23年3月期）は売上高1,050億円以上、営業利益90億円以上を目指す
- 営業利益率・ROE 8.0%以上を安定的・継続的に達成できる収益構造を確立



中期経営計画：売上計画

- 21年3月期は電子産業分野のプラント中心に拡大を計画、中期計画では電子プラントの拡大を限定的に想定
- ソリューション・機能商品・新規事業など安定収益源を強化し、収益構造を改革

(単位：億円)



中期経営計画：さらなる取り組み

業務改革の 推進

- 前期導入した新ERPシステムをさらにレベルアップし、ペーパーレス化やICTツールの活用を進め、生産性の改善と働き方改革を実現する
⇒緊急事態宣言下での在宅勤務に対応

グローバル エンジニアリング 体制の構築

- 国内外のエンジニア体制強化に向け、アジア地区にGEC（グローバルエンジニアリングセンター）を設立
⇒BCPの観点からも検討、2021年の設立目指す
- ICT技術の活用などエンジニアリングの効率化推進
- ソリューション強化に向け国内外の体制を再編

コーポレート ガバナンス強化

- 招集通知や決算短信などの英文開示を開始
- 統合報告書の作成に着手、20年秋の発行目指す
⇒国内外の機関・個人投資家との対話強化を図る

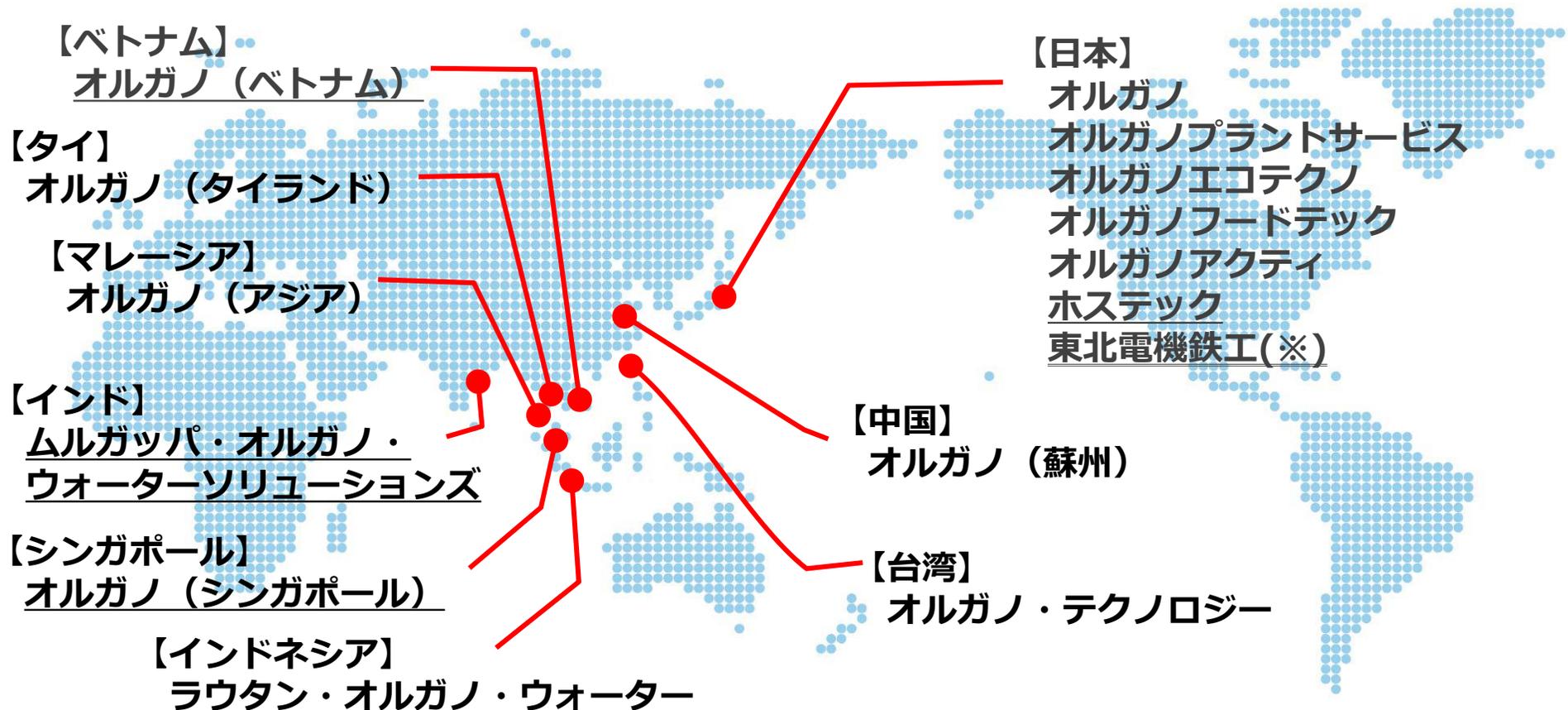
目次

1. 2020年3月期 通期実績
2. 2021年3月期 通期計画
3. 中期経営計画
- 4. 会社概要**

会社概要

社名	オルガノ株式会社（英名：Organo Corporation）	
本社所在地	〒136-8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号	
設立	1946年5月1日	
代表者	代表取締役社長 内倉 昌樹	
資本金	82億2,549万9,312円	
従業員数	2,249名（連結） ※2020年3月31日現在	
主な事業内容	水処理エンジニアリング事業	プラント事業 大型水処理設備の製造販売
	二アリング事業	ソリューション事業 設備のメンテナンス・運転管理・改造工事等
	機能商品事業	標準型水処理機器、水処理薬品、 食品添加剤の製造販売
主な事業所	本社（東京都江東区）、開発センター（相模原市）、 つくば工場（つくば市）、いわき工場（いわき市）、 北海道支店（札幌市）、東北支店（仙台市）、 関東支店（東京都江東区）、中部支店（名古屋市）、 関西支店（吹田市）、中国支店（広島市）、九州支店（福岡市）	

オルガノグループ各社



(※)は持分法適用会社、下線は非連結子会社・関係会社

オルガノグループの歴史

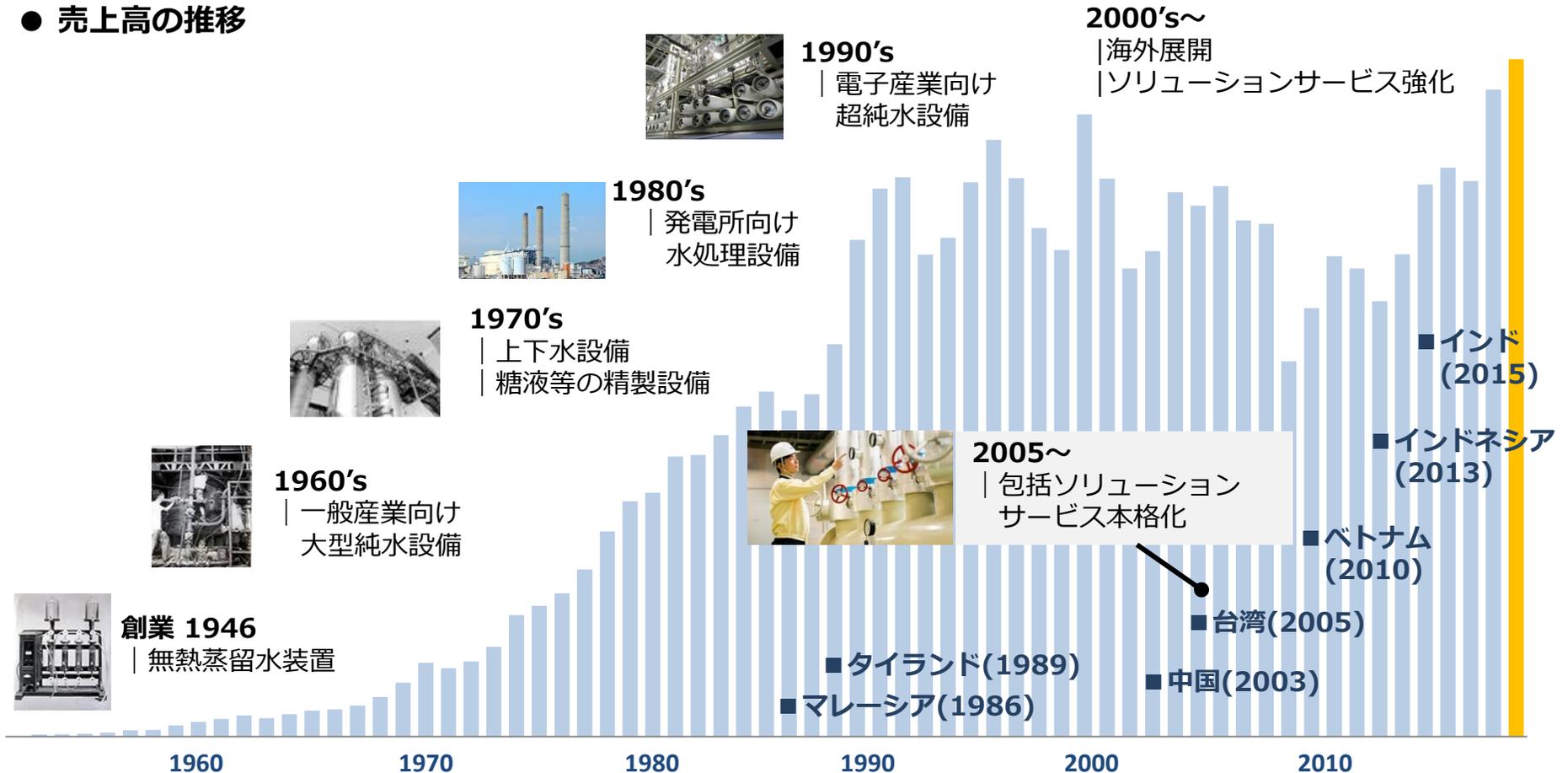
創業期

成長期

成熟期

再成長期

● 売上高の推移



オルガノグループの事業

水処理エンジニア事業

機能商品事業

ソリューション
413億円



- | 消耗品交換・メンテナンス
- | 運転管理・包括メンテナンス
- | 改造工事
- | 水処理加工受託

2020.3期
売上高
779億円

プラント
365億円



- | 純水・超純水設備
- | 排水処理・回収設備
- | 有価物回収設備
- | プロセス関連設備

食品加工材
51億円



- | 食品添加剤
- | 食品素材

水処理薬品
71億円



- | 排水・冷却水・洗浄・RO膜・ボイラ等処理剤

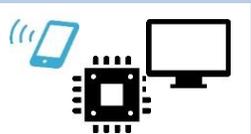
標準型機器・フィルタ
62億円



- | 純水・超純水装置
- | 浄水フィルタ

2020.3期
売上高
185億円

電子産業



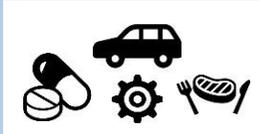
- ・半導体
- ・FPD
- ・電子部品

電力/上下水



- ・発電所
- ・浄水場
- ・下水処理場

一般産業



- ・医薬/化粧品
- ・食品/飲料
- ・機械/化学

機器/フィルタ



- ・医療/研究
- ・各種製造業
- ・飲食/コンビニ

水処理薬品



- ・各種製造業
- ・ビル/商業施設

食品加工材



- ・食品加工
- ・飲料製造
- ・介護/健食

お問い合わせ先

経営統括本部 経営企画部

TEL : 03-5635-5111 / FAX : 03-3699-7240

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

問合せフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>



オルガノ株式会社

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。